

V・エル・ネット「オープンカレッジ」番組データベースについて

エル・ネット「オープンカレッジ」番組データベースについて

平成11年度から6年間にわたって取り組まれてきた「エル・ネット高度化推進事業」では、延べにして国公私立235大学、726講義の大学公開講座を全国の受信局に提供するとともに、その講義をビデオテープかもしくはDVDに記録して残してきている。これらの講義は、すべて著作権処理がなされており、衛星通信などを使用しての再送信、及び録画した講義を公民館等の公的施設にて2次利用すること等も可能な状況で蓄積されている。なお、平成16年度の一部の講義は、インターネットを利用した配信にも対応できるよう著作権の処理が行われている。

ところで、これまでの「オープンカレッジ」の講義の利用は、送信局から配信された講義を受信会場にて集合学習形態で学んだり、ビデオ録画して後日、住民に教育事業の一環として提供されてきた。また、個人にも、求めに応じて録画ビデオの貸し出しを行い集合学習の復習や個人学習の教材としても利用されてきている。

しかし、これまで配信された「オープンカレッジ」の講義が全国の受信施設で十分に利用されてきたとは言い難い部分もあり、今後は、これから作成される大学公開講座の録画も加えながら、これまで蓄積された726講義について「オープンカレッジ」番組のデータベース化を行い、詳細な録画講義の情報提供を軸に受信施設のみならず、県や市町村の教育関係機関・団体などでの利用の促進を図っていく必要がある。

1. 「オープンカレッジ」の録画講義のデータベース化

「オープンカレッジ」の録画講義は、その収録年度に6年間のタイムラグがある。そのため、データベースとして情報を提供する前に、録画講義の内容を精査し、再利用できる講義内容かどうか講義全体を点検する必要がある。例えば、講義の題目と照らし合わせ、講義の全体構成が合致しているかどうか、また、内容的に「今日の社会状況との適時性があるか、学問的に陳腐化していないか、不適切な表現がないか」などの専門的分析も必要である。また、再利用のための著作権の承諾書の確認も同時進行する必要がある。

さらに6年間の調査研究期間の後半には、多くの大学で独自収録が行われ、その収録状態にばらつきが見られるので、映像、音声だけでなく、講義時間、資料などの講義全体の構成まで踏み込んだ分析を行い、再利用希望者の視聴に供する講義情報としてデータを構築する必要がある。(点検項目は、表『エル・ネット「オープンカレッジ」大学公開講座チェック項目(案)』100ページを参照)。

また、データベース化した録画講義の資料は、インターネットで検索できるようにするとともに、講義に付随する講義テキスト等の講義資料が提供できるシステムも構築する必要がある。

2. 「オープンカレッジ」の録画講義の今後の利用

これまでの「オープンカレッジ」の講義の利用は、受信会場を中心とした集合学習形態で学ぶものが大部分であり、ビデオ録画しての再利用や個人の利用はほとんど少数であっ

たといえる。

今後、「オープンカレッジ」の録画講義のデータベースを利用してどのような学習活動が期待されるか、6年間の調査研究を通して得られた知見をもとに整理してみる。

この前提として、ビデオやDVDになった録画講義を活用することは、「衛星通信を利用した大学公開講座」の特性である同時性や広域性などの従前のしぼりがなくなり、「大学公開講義」そのものが持つ学習教材としての価値が前面に出てくることとなる。

(1) 集合学習形態での利用

○教育委員会や公民館だけでなく、他の行政セクションの教育事業や民間教育事業も含めて、集合学習における特定の学習課題に対応する補助学習教材として、学習プログラムの1コマに加えて、学習の広がりや理解を深めることなどに活用することができる。その際に、録画講義の内容を補完できる地元の講師を活用することで学習効果を一層あげることができる。

○同様の学習事業において、まず学習活動の導入部で学習課題に関連する講義を視聴することで「話題提供的な役割」や「きっかけ」（学習動機付け）として利用し、教育事業における受講者の学習活動の導入や展開づくりに活用することも考えられる。

当然、講義の内容を補完できる地元の講師の活用は有効である。

○多くの教育事業において、学習課題に関係する専門家の講師の講義前に、事前学習として関連する録画講義を視聴し、講師の講義の理解を深めることで学習効果を高めることもできる。

○市民の多様な学習ニーズに対応するために学習メニュー方式を導入する際には、地元の講師では足りない領域の講義を、「オープンカレッジ」の録画講義を活用することによって対応することができる。

○近年増えつつある大人の体験学習としての「生涯学習ツアー」、「フィールドワーク」や「現地学習会」などにおいても、地元講師による直接講義に加えて、事前学習として「オープンカレッジ」録画講義の活用が有効である。

実際、これまで「オープンカレッジ」で全国の大学が講義内容として取り上げた地域に関する講義テーマは、他県の受信会場から見れば、遠隔地に関心を寄せる学習テーマであり、直接自ら体験したいという受講者が多く存在する。前述の体験学習活動は、6年間の調査研究におけるモデル事業や参加大学のいくつかで実施されており、今後の活用が一層期待される分野である。

(2) 個人学習形態での利用

「オープンカレッジ」講義のデータベース化によって講義内容が整理され、インターネットで検索できるようになれば、特定分野の学習をしたい個人のニーズに対応できるようになる。

そのためには、全国に展開している2,000か所の受信施設が理想であるが、最低でも各県に1か所程度の貸し出し拠点があれば、個人のニーズに対応できることも考えられる。しかし、不特定多数の個人を対象とすることは、現状の講義録画ビデオやDVDのライブ

ラリーの現状からは、貸出などの点で物理的に無理である。今後、個人ニーズに対応するためには、何らかの手立てを検討する必要がある。

一方、将来的には、インターネット網の全国整備の充実により、インターネットのストリーミング機能を活用した講義全体の視聴や録画講義のモジュール化による特定内容の学習などが期待される。当然、録画講義をサーバーに蓄積し、オンデマインドで利用できる状況になることも必要なことである。ただし、この場合、著作権処理を全ての講義について解決しておく必要がある。

3. 今後の課題

「オープンカレッジ」の講義のデータベース化によって、再利用するための情報環境を整うことは確かであるが、実際に録画講義を利用して学習事業を開きたいという場合にどのように対応するのか、そのシステムが構築されないと利用に供することができない。

つまり、録画ビデオやDVDをどのように配信するのか、そのテキストはどうするのか。今後、検討しておく必要がある。また、講義を録画したものを提供する訳であるから、いつでも、どこでも利用できる学習教材としての価値が生じてくる。その利用方法について、関係者に周知し、利用の促進を図っていく必要もある。

(仲野 寛)

表. エル・ネット「オープンカレッジ」大学公開講座チェック項目(案)

	チェック項目	チェック内容	記入例	有	
講座全体概要 (フェイスシート)	1 収録年度	収録年度	平成 年度	○	
	2 大学名		仙台大学	○	
	3 講座名(講義回数)	講座名/副題/講義回数	スポーツと健康(全2回)	○	
	4 講座概要	講座の趣旨、概要を箇条書きに簡潔にまとめる。 講座要約	記入例 ① 温熱環境と健康・スポーツについては、暑さや寒さの温熱環境は人の健康に及ぼす影響は極めて重要であると云われている。また、暑いときの厳しいスポーツは、熱中症が発生する等の身体的変化が生ずるときがある。これ等の予防法等について解説し、実生活に役立てていただくことを期待するものである。 ② レクリエーションの概念は個人々の趣味や文化的活動がどのような効果をもたらすか、具体的な例を示しながら一緒に勉強したい。 ③ 高齢になるほど骨が弱くなったり、筋力が低下して転倒しやすくなる。転倒には、バランス能力の低下も原因といわれている。転びにくい身体をつくるために、正しい身体の使い方を解説する。 講座概要を100文字以内に要約	○ ×	
各回講義概要	5 講義コード		0203420020102	○	
	6 講義回	第○回、確認	①第1回 ②第2回 ③第3回 ④第4回	○	
	7 放送日		放送日 年 月 (再放送日についても記入)	○	
	8 講義名(テーマ)		レクリエーション活動と健康	○	
	9 講義副題(サブテーマ)			○	
	10 分類	講座分類表に基づき3つまで記載	番号() () ()	○	
	11 講義レベル		①初級:入門/教養課程 ②中級:専門的内容/専門課程 ③上級:大学院	○	
	12 講義内容	(既存のデータベースを、キーワードを中心に2~3行に要約する) 講義要約	レクリエーション活動には、心と身体の調和を促す機能があると考えられており、どのような効果をもたらすかを、具体的な活動を紹介しながら解説する。 講義概要を100文字以内に要約	○ ×	
	13 講義のキーワード	3つまで記載	1. 2. 3.	△	
	14 講師名(よみがな)		仲野 隆士 (なかの たかし)	○	
	15 所属/役職(収録当時)	収録当時の所属と役職	仙台大学/助教授	○	
	16 参考文献	出典の表示		○	
	17 著作権契約レベル		①「A」②「AB」③「ABC」④「AC」⑤空欄	○	
	18 著作権有効期間		①有効期限 平成 年 月 日まで	○	
	19 収録実施主体		①大学独自収録 ②協議会が東京で収録 ③協議会が大学(現地)で収録	○	
	講義チェック項目	20 講義時間	講義の尺	前半(分):休憩(分):後半(分) ※質疑(分)	×
		21 講義形式	前半	①一般講義 ②講演 ③対談 ④座談会 ⑤フィールドワーク ⑥双方向質疑	×
			後半	①一般講義 ②講演 ③対談 ④座談会 ⑤フィールドワーク ⑥双方向質疑	×
		22 講義資料	掲示物種類	①文字 ②表 ③図 ④写真 ⑤動画(ビデオ)	×
提示状況			①見やすい ②見にくい	×	
提示時間			①長い ②ちょうど良い ③短い	×	
23 映像状態		全体を通して	①見やすい(疲れない) ②見にくい(疲れる)	×	
		映像状態 ※特記事項	①良好 ②焦点が不良 ③ブレがある ④動きすぎる ⑤明暗が強い	×	
24 音声レベル		音量	①ちょうど良い ②少し小さい ③時々聞こえない	×	
		音質	①聞きやすい ②音声が鮮明でない ③雑音が多い	×	
	※特記事項		×		
25 著作物の出典表示	著作物の種類と出典表示	①引用文献(有・不明) ②表(有・不明) ③図(有・不明) ④写真(有・不明) ⑤映像ビデオ(有・不明)	×		
再利用の場合の チェック項目	26 講義内容全般	講義テーマと内容のマッチング	①合っている ②合っていない(□一部のみ □全体的)	×	
		講義内容の適時性	①適切である ②不適切である(□一部のみ □全体的)	×	
		画質	①よい ②悪い(□一部のみ □全体的)	×	
		音質	①よい ②悪い(□一部のみ □全体的)	×	
		講義全体の総評(コメント)	①再利用が可能である ②一部修正で可能である ③再利用に適さない (コメント)	×	
	27 講義テキストの入手	PDFテキストの利用	①可能 ②不可	×	
	28 質問受付	再利用での質問受付対応	①可能 ②不可	×	
29 備考	上記項目以外の特記事項		×		

注1)「有」欄の○は日本視聴覚教育協会のデータが利用可能で、×は不可、△は一部利用可能を示す。

注2) 第26項目「講義全体の総評」は、チェック項目の結果を踏まえて記載する。

VI · 資 料

平成16年度「エル・ネット高度化推進事業」報告書

平成17年3月

高等教育情報化推進協議会

1. 趣 旨

高度化・多様化している人々の生涯学習ニーズに対応するため、「教育情報衛星通信ネットワーク（エル・ネット）」を活用し、大学等の公開講座などを全国の社会教育施設へ提供するとともに、衛星通信と地上回線とを融合的に活用した効率的な遠隔教育システムの開発など、エル・ネットの高度化に資する調査研究を実施した。

2. 委託期間 平成16年5月6日～平成17年3月18日

3. 事業の内容等

(1) 調査研究委員会

推進協議会を組織し、運営・実施を円滑に行うため、以下の委員会を設置した。

○推進協議会・連携協力検討委員会・システム検討委員会 合同会議

エル・ネット「オープンカレッジ」の運営・実施を円滑に行うために、連携協力検討委員会、システム検討委員会を統括し、協議した。

<委員会開催日・主な議題>

第1回 平成16年6月30日

- ・平成16年度参加大学・実施内容及びスケジュール等について
- ・平成16年度実施について 事業内容及び今後の進め方について

第2回 平成17年3月2日(連携協力検討・システム検討両委員会は第5回に相当)

- ・平成16年度 報告
- ・平成17年度 エル・ネット「オープンカレッジ」について

①連携協力検討委員会

エル・ネット「オープンカレッジ」の受講体制の活性化にあたって、大学と教育委員会、ボランティア、学習グループ間の連携を促進するための検討を行った。

<委員会開催日・主な議題>

第2回 平成16年8月24日

- ・検討課題について
- ・平成16年度モデル事業の実施について

- ・モデル事業等の検討について
- 第3回 平成16年12月2日
- ・検討課題について（再確認）
 - ・平成16年度モデル事業の進捗状況について
- 第4回 平成17年3月1日
- ・平成16年度モデル事業の報告
 - ・平成16年度モデル事業についての協議
 - ・報告書の執筆について

②システム検討委員会

エル・ネット「オープンカレッジ」の講座を送配信するにあたってのシステム等全般にわたって検討した。

- 第2回 平成16年9月8日
- ・検討課題について
 - ・事例検討
 - ・受信施設の状況について
- 第3回 平成16年12月17日
- ・実証実験について
 - ・インターネット配信について
- 第4回 平成17年2月25日
- ・実証実験の報告
 - ・インターネット配信について
 - ・報告書の執筆について

(2) 事業の内容等

(1) 新規講座（54講義）の収録と配信

<配信：8月7日（土）～2月26日（土）>

なお、8月12日（木）～2月18日（金）まで、翌週（木・金）で再放送を実施した。

○放送数

平日（火、水、木、金）	150日
土曜	40日
日曜	4日

○新規収録番組	54講義
現地収録	18講義
東京収録	7講義
大学独自収録	29講義

平日放送は148日の計画であったが、受信障害等により10月27日、2月26日が追加となった。11月14日（日）～2月13日（日）まで、4回にわたって日曜講座を実施し、受講機会の拡大を図った。

(2) リクエスト講座の配信と必要な手直し

<配信：5月8日（土）～2月24日（水）>（8月からは火・水曜日放送）

平成15年度以前の講座で、リクエストのあった120講義を放送した。

(3) 連携協力検討委員会、システム検討委員会を設置し具体的な課題について検討した。

①連携協力検討委員会

北海道立生涯学習推進センター、広島県立生涯学習センター、大阪市立総合生涯学習センター、千葉県我孫子市生涯学習センターでのモデル事業の実施を通じて、大学・県民カレッジ等との併用システム、学習の活発化・継続化支援、ボランティア等の人材活用、広報活動について検討した。

②システム検討委員会

琉球大学生涯学習教育研究センターにおける実証実験等を通じて、インターネットとの併用システム、インターネット配信等の検討と実施、利用促進と支援、著作権への対応について検討した。

(4) 上記4地区でモデル事業を実施した。

(5) エル・ネット オープンカレッジニュースを3回（9/27、12/10、3/18）発行した。

(6) 平成11年度からの6年間にわたる「オープンカレッジ」番組726本について番組情報データベースを作成した。

(7) 喫緊の課題に関する特別追加講義番組を制作した。

4. 事業の実施経過

5月～7月

参加大学の決定（文科省）、実施大学への説明会（文科省）、リクエスト講座の実施、大学公開講座の収録、テキストPDF作成、広報活動（ポスター・パンフレット、メールマガジン、ストーリーミング等）、推進協議会・連携協力検討委員会・システム検討委員会合同会議の開催

8月～2月

新規大学公開講座の放送（再放送）、大学公開講座の収録、テキストPDF作成、広報活

動（ニュースレター、メールマガジン、ストリーミング等）、モデル事業の実施、実証実験の実施、連携協力検討委員会の開催、システム検討委員会の開催

3月

推進協議会・連携協力検討委員会・システム検討委員会合同会議の開催、報告書作成

5. 事業の成果と今後の課題

新規収録講座を土曜日2コマ、その再放送を翌週の木、金曜日、リクエスト講座を火、水曜日に放送することで、受信局側において、新規講座の録画ミスへの対応、講座内容のチェックなど、利便性のある番組構成にした。

連携協力検討委員会では、モデル事業等において、県民カレッジや市民カレッジでの「オープンカレッジ」講座の活用、ボランティア等の人材活用、講座番組のライブラリー化、教材のパッケージ化などの新たな取り組みが報告された。

システム検討委員会では、インターネットとの併用システムについての課題に対して、実証実験を琉球大学生涯学習教育研究センターにおいて実施し、その有効性について検討した。また、以下の3講座について、インターネット配信の検討を行い試験的に実施した。「子どもと食育」（久留米信愛女学院短期大学）、「eポートフォリオ入門－IT活用で生涯学習を80倍面白くする方法－」（東北芸術工科大学）、「阿波踊りを学ぶ」（徳島大学）。

連携協力検討委員会、システム検討委員会の成果から、継続的に遠隔大学公開講座を実施していくための、新たな課題が明らかになった。1つは、大学企画型の講座から、地域の学習者の側から大学に対して公開講座についての要望を出す段階が来ているのではないかと、という問題提起。もう1つは、インターネットのブロードバンド化の流れにあって、映像の品質確保という観点から、衛星通信とインターネットを融合した総合システムを検討することの意義について、実証的に示したことである。

平成16年度「エル・ネット高度化推進事業」計画書

平成16年4月

高等教育情報化推進協議会

1. 趣 旨

高度化・多様化している人々の生涯学習ニーズに対応するため、「教育情報衛星通信ネットワーク（エル・ネット）」を活用し、大学等の公開講座などを全国の社会教育施設へ提供するとともに、衛星通信と地上回線とを融合的に活用した効率的な遠隔教育システムの開発など、エル・ネットの高度化に資する調査研究を実施する。

2. 事業の実施時期 委託を受けた日から平成17年3月18日

3. 事業内容等

(1) 調査研究委員会

推進協議会を組織し、運営・実施を円滑に行うため、以下の委員会を設置する。

①連携協力検討委員会

エル・ネット「オープンカレッジ」の受講体制の活性化にあたって、大学と教育委員会、ボランティア、学習グループ間の連携を促進する。

②システム検討委員会

エル・ネット「オープンカレッジ」の講座を送配信するにあたってのシステム等全般にわたって検討する。

(2) 事業の内容等

(1) 新規講座（54講義）の収録と配信

<配信：8月7日（土）～>

(2) リクエスト講座の配信と必要な手直し

<配信：5月8日（土）～>

(3) 委員会による検討

2委員会を設置（連携協力検討委員会、システム検討委員会）

(4) モデル事業の実施

4地区で実施、設置する2つの委員会で分担して担当する。

(5) エル・ネット オープンカレッジニュースの発行 年3回

①連携協力検討委員会

<主な検討事項>

- 大学、県民カレッジ等との併用システム
- 学習の活発化・継続化支援
- ボランティア等の人材活用
- 広報活動の検討
- モデル事業の実施
 - (北海道立生涯学習推進センター)
 - (広島県立生涯学習センター)
 - (大阪市立総合生涯学習センター)
 - (千葉県我孫子市生涯学習センター)

②システム検討委員会

<主な検討事項>

- インターネットとの併用システム
- インターネット配信等の検討と実施
- 利用促進と支援
- 著作権への対応
- モデル事業の実施
 - (琉球大学生涯学習教育研究センター)

③番組データベース（番組DB）の作成

平成11年度からの「オープンカレッジ」番組726本について番組情報データベースを構築する。

④喫緊の課題に関する特別追加講義番組を制作する。

- 放送予定数
 - 平日（火、水、木、金） 148日
 - 土曜 40日
- 新規収録番組 54講義
 - 現地収録 18講義
 - 東京収録 7講義
 - 大学独自収録 29講義

4. 事業の実施スケジュール

5月～7月

リクエスト講座の配信、新規講座参加大学の決定（文科省）、実施大学への説明会（文科省）、大学独自収録説明会、大学公開講座の収録、テキスト作成、広報活動（ポスター・パ

ンフレット)、推進協議会、連携協力検討委員会、システム検討委員会の開催

8月～2月

大学公開講座の放送、新規講座の収録と配信、テキスト作成、インターネット配信等の検討と実施、広報活動（ニュースレター）、連携協力検討委員会、システム検討委員会の開催

3月

推進協議会、連携協力検討委員会、システム検討委員会の開催、番組データベースの作成、特別追加講義番組の作成、報告書作成

5. 見込まれる事業の成果

連携協力検討委員会においては、教育委員会や公民館等の受信施設、また学習グループが、遠隔大学公開講座を積極的に活用していくための具体的な手法として、各種連携協力のあり方についてモデル事業を通して実証的知見を得る。

システム検討委員会においては、衛星通信と地上回線を融合的に活用した効率的な遠隔教育システムの開発にかかる具体的な手法について、モデル事業を通して実証的知見を得る。

6. 文部科学省との連絡担当者

(1) 高等教育情報化推進協議会委員 岡部守男

(2) 電話番号 03-3591-2186

(3) e-mail okabe@javea.or.jp

平成16年度 エル・ネット「オープンカレッジ」

テキスト（レジメ）執筆要項

◆テキスト（レジメ）の配布について

テキスト（レジメ）は、受講者にとって学習の手引きとなりますので、必ず指定の期限日（講義放送日の1ヶ月前）までにご執筆・ご提出をお願いします。

今回は、各講座ごとにテキスト（レジメ）を作成し、インターネットでダウンロードできるようにします。

◆仕 様

1 講義（50分+50分）につき A4 2枚 1 ページ文字数 40字×30行 程度を標準とします。

◆取扱い

各回講座のテキスト（レジメ）は、インターネットにPDFファイルで、平成17年3月末日まで掲載いたします。再放送を行う場合は放送前後1ヶ月間掲載します。

◆内 容

講座の全体の表紙用データ（表紙自体は協議会で作成します）

- (1) 講座テーマ
- (2) 各回講義テーマ
- (3) 講義日時
- (4) 講座提供機関
- (5) 講師名（ふりがな）（役職）

テキスト（レジメ） 本文

- ・以下のように見出しを立ててお書きください。

見出しの立て方

各回ごとに

1. ○○○○○○
 - (1) ○○○○○○○○
 - ① ○○○○○○

- ・図表、写真にはそれぞれ資料番号を付け、それぞれに短い解説・出典を入れてください。

資料1 - ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

(出典：○○○○○○○○○)

- ・巻末に参考文献をおつけください。

講義の中で引用された文献について

著者（编者）、書名（論文名、雑誌名、巻数）、発行所、発行年の順にご記入ください。
受講者が学習する上で参考になる文献についても、上記に準じて記入してください。

◆備考

- ・ わかりやすい平易な文章を心がけるようお願いします。
- ・ 文体は「・・・だ・・・である」調でお願いします。用字、用語は「常用漢字、現代かなづかい」にてお願いします。
- ・ 講義の中で、画面に図、表、写真等を提示することは可能ですが、通常のテレビ画面に投影されるため、文字の判読や細部の読みとりに困難が生じる恐れがあります。提示用の資料は可能な限り、テキスト（レジメ）に収録するようお願いします。
- ・ ご利用いただく図版、写真については、前記条件により著作権の処理済みのものをご用意ください。

◆原稿期限

講義放送日の1か月前までに原稿を送っていただくこととします。（原稿の提出が遅れた場合放送日に間に合いません。ホームページに「原稿遅れ」と掲載いたします。）

8月、9月放送予定の新規収録講義につきましては、ご連絡が遅れていることもあり放送の2週間前までとします。

◆提出フォーム

原稿はWord・一太郎・PDF形式のいずれかをE-Mail添付で下記提出先にお送り下さい。

◆提出先・連絡先等

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1 視聴覚ビル

(財)日本視聴覚教育協会 内

高等教育情報化推進協議会 事務局 担当 佐藤、下川

TEL 03-3591-2186

FAX 03-3595-1297

E-Mail edit@javea.or.jp

平成16年度エル・ネット「オープンカレッジ」講座講義一覧表（1）

放送予定	再放送	大学名	講座名	講義名（講師名／講師役職）
2月12日	2月18日	北海道教育大学	サハリンとロシア極東の美術家たち	1. サハリン州について／サハリンの画家たち（谷古宇 尚／北海道教育大学助教授）
2月19日	2月25日			2. 美術の制度について／他のロシア極東の町（谷古宇 尚／北海道教育大学助教授）
10月16日	10月21日	千葉大学	藁（わら）を燃したら笑われる －藁の文化の再生を考える	1. 藁が辿ってきた道／生活文化を支えてきた藁（宮崎 清／千葉大学理事・工学部長・教授）
10月23日	10月28日			2. 土から生まれ土に帰る藁／藁の文化再生（宮崎 清／千葉大学理事・工学部長・教授／久保 光徳／千葉大学助教授）
12月11日	12月16日	東京学芸大学	特別支援教育の基礎的理解	1. 特別支援教育コーディネーターの役割／LD・ADHDの理解と支援（加瀬 進／東京学芸大学助教授／小池 敏英／東京学芸大学教授）
12月18日	12月23日			2. 自閉症・高機能自閉症の理解と支援／就学前の課題と支援（太田 昌孝／東京学芸大学教授／菅野 敦／東京学芸大学教授）
10月9日	10月15日	新潟大学	腎臓の病気	1. 前半：小児の腎臓病／後半：大人の腎臓病（内山 聖／新潟大学大学院教授／下条 文武／新潟大学大学院教授・新潟大学医歯学総合病院長）
10月16日	10月22日			2. 前半：透析療法／後半：腎臓移植（高橋 公太／新潟大学大学院教授／西 慎一／新潟大学助教授）
11月27日	12月2日	山梨大学	発達学の中級と教育実践の中級	1. 教育実践学の中級1／発達学の中級1－小学校の時期までの子どもの発達と教育実践について－（鳥海 順子／山梨大学教授／林 尚示／山梨大学助教授）
12月4日	12月9日			2. 教育実践学の中級2／発達学の中級2－小学校の時期からの子どもの発達と教育実践について－（鳥海 順子／山梨大学教授／林 尚示／山梨大学助教授）
10月30日	11月4日	岐阜大学	自然と人間の関係を考える －スリランカ古代灌漑文明はなぜ滅びたか－	1. 自然と人間の関係性を考える（野元 世紀／岐阜大学教授）
11月6日	11月11日			2. 灌漑設備における水収支と文明の行方（野元 世紀／岐阜大学教授）
9月25日	10月1日	滋賀医科大学	わかりやすい心臓病治療最前線	1. 心臓病治療最前線Ⅰ－循環器内科－「21世紀の不整脈治療」（伊藤 誠／滋賀医科大学講師）
10月2日	10月8日			2. 心臓病治療最前線Ⅱ－心臓血管外科－「冠動脈バイパス手術は、なぜ心拍動下手術なのか？」（浅井 徹／滋賀医科大学教授）
11月27日	12月3日	広島大学	物質の世界	1. 古代・中世の物質観／近代化学の誕生と現代の物質観（竹内 敬人／広島大学客員教授）
12月4日	12月10日			2. 物質科学とそのナノ・バイオテクノロジーへの応用／21世紀に向けた新しい物質科学の創成（竹内 敬人／広島大学客員教授）
10月23日	10月29日	徳島大学	阿波踊りを学ぶ	1. 阿波踊りを学ぶ（中村 久子／徳島大学教授／田中 俊夫／徳島大学助教授／南 和秀／「阿波踊り魂」編集長）
10月30日	11月5日	琉球大学	琉球芸能の世界	1. 琉球の宮廷芸能（1. 琉球の古典舞踊／2. 琉球古典劇「組踊」の発生と展開）（池宮 正治／琉球大学教授）
11月6日	11月12日			2. 琉球列島の民俗芸能（久万田 晋／沖縄県立芸術大学附属研究所助教授）
8月14日	8月19日	群馬県立女子大学	「群馬」を知る	1. 群馬の万葉歌（北川 和秀／群馬県立女子大学教授）
8月21日	8月26日			2. 和歌の中の群馬（石川 泰水／群馬県立女子大学教授）
11月13日	11月19日	富山県立大学	海をめぐる人と環境 －日本海学の視点から－	1. 日本海のバイオモニタリング－生物からみた海洋汚染－大陸から飛来する物質－その自然環境への影響－（楠井 隆史／富山県立大学教授／渡辺 幸一／富山県立大学助教授）
11月20日	11月26日			2. 降水の化学物質汚染－大気から水環境へ－富山湾の汚濁はどこから？－川の生き物が教えてくれるもの－（奥川 光治／富山県立大学助教授／安田 郁子／富山県立大学教授）
8月7日	8月12日	北海道医療大学	お口の健康セミナー	1. 全身と口腔の健康の関わりについて（越野 寿／北海道医療大学教授・歯学部附属病院地域支援医療科長）
9月18日	9月23日	八戸大学	地域社会とGIS（地理情報システム）	1. 楽しいGIS入門（江渡 充芳／八戸大学教授）
9月25日	9月30日			2. 地域活性化におけるGIS活用について（村本 卓／八戸大学助教授）
9月4日	9月9日	東北芸術工科大学	eポートフォリオ入門－IT活用で生涯学習を80倍面白くする方法－	1. eポートフォリオ入門 1 eポートフォリオとは何か／2 eポートフォリオを作ってみよう（前川 道博／東北芸術工科大学専任講師）
9月11日	9月16日			2. 3 協働学習企画／4 協働学習で地域活動／裏方のサーバ運用（前川 道博／東北芸術工科大学専任講師）

平成16年度エル・ネット「オープンカレッジ」講座講義一覧表（2）

放送予定	再放送	大学名	講座名	講義名（講師名／講師役職）
11月13日	11月18日	常磐大学	子どもの心理	1. 乳幼児期・児童期のこころの発達を理解しよう（濱崎 武子／常磐短期大学・常磐大学大学院教授）
11月20日	11月25日			2. 思春期のこころの発達を理解しよう（濱崎 武子／常磐短期大学・常磐大学大学院教授）
8月28日	9月3日	慶應義塾大学	身近になるロボット —人とロボットの共存—	1. ロボットの考古学—機械とからだ—／アニメの世界から生活の中に入ってくるロボット（萩原 真一／慶應義塾大学教授／萩田 紀博／ATR知能味テイク研究所所長）
9月4日	9月10日			2. 人間型ロボットの普及に向けて—wakamaruを例として—／ロボットが変わる—癒しや介護のためのロボット—（日浦 亮太／三菱重工神戸造船所新製品・宇宙部味テイクグループ主任／今井 倫太／慶應義塾大学専任講師）
10月2日	10月7日	上智大学	ケアの思想 —キリスト教と仏教のアンゲルから—	1. 1. ケアとは何か（イントロダクション）／2. キリスト教におけるケアの思想（長島 正／上智大学教授／山岡 三治／上智大学教授）
10月9日	10月14日			2. 3. 仏教におけるケアの思想／4. ケアとは何か（まとめ）（長島 正／上智大学教授／高山 貞美／上智大学講師）
1月15日	1月20日	創価大学	日常生活の人間学	1. 日常生活と健康—運動そして食生活—（鈴木 正敏／創価女子短期大学現代ビジネス学科長・教授）
1月22日	1月27日			2. 異文化コミュニケーション—日常の相互理解—（西本 徹／創価女子短期大学教授）
8月7日	8月13日	東洋大学	21世紀の保健・医療・福祉を考える —薬害・難病問題研究の立場から—	1. 21世紀の保健・医療・福祉を考える—薬害・難病問題研究の立場から—（片平 冽彦／東洋大学教授）
2月26日		女子美術大学	絵画・版画の理論と制作	1. 油絵の理論と制作（齋藤 研／女子美術大学短期大学部教授）
2月26日				2. 版画の理論と制作（馬場 章／女子美術大学教授）
1月29日	2月4日	佛教大学	能の歴史と文化 —能の鑑賞を交えて—	1. 能の演技、囃子／能の歴史と文化（河村 晴久／能楽師（観世流シテ方）／竹下 喜久男／佛教大学教授）
2月5日	2月11日			2. 「能面」、能装束／能の鑑賞（演目「百萬」）（河村 晴久／能楽師（観世流シテ方））
12月11日	12月17日	九州産業大学	情報技術(IT)革新によって生活はどう変わるか	1. 第一回講義（松本 正雄／九州産業大学教授）
12月18日	12月24日			2. 第二回講義（松本 正雄／九州産業大学教授）
1月8日	1月14日	京都光華女子大学	高齢期における自立と自己決定	1. マイケアプランの意義と方法 介護とは何か～介護保険制度の改善に向けて（小國 英夫／京都光華女子大学教授）
8月28日	9月2日	山梨県立女子短期大学	東南アジアの幼稚園・保育園 —国際化時代に生きる子どもたち—	1. タイ、マレーシア、シンガポールの幼児教育の姿（池田 充裕／山梨県立女子短期大学助教授／手嶋 将博／文教大学講師／鈴木 康郎／筑波大学助手）
1月8日	1月13日	久留米信愛女学院短期大学	子どもと「食育」	1. 子どもと「食育」（山下 浩子／久留米信愛女学院短期大学専任講師／関 聡／久留米信愛女学院短期大学教授／岡部 千鶴／久留米信愛女学院短期大学助教授）
1月15日	1月21日	名古屋産業大学・名古屋経営短期大学	続・カラーセラピーの世界をのぞいてみよう！ —カラーでカウンセリング—	1. カラーカウンセリング／色の意味とカラーシンボル（橋本 俊哉／名古屋経営短期大学非常勤講師）
1月22日	1月28日			2. 色の意味とカウンセリングの実際／カラーヒーリングの方法と種類（橋本 俊哉／名古屋経営短期大学非常勤講師）
8月14日	8月20日	松山東雲女子大学・松山東雲短期大学	子どもと現代家族 —巣立ちへの子育てを考える—	1. さまよえる現代っ子、子育て困難の時代（塩崎 千枝子／松山東雲女子大学人文学部人間文化学科長・教授）
8月21日	8月27日			2. 巣立つための条件、これからの子育て—体験・居場所・出番づくり—（塩崎 千枝子／松山東雲女子大学人文学部人間文化学科長・教授）
1月29日	2月3日	島根大学・佛教大学	持続可能な地域再生の理論と実践 —中山間地域での新しい挑戦—	1. 新田園社会の台頭 —地域再生への指針—（満田 久義／佛教大学教授）
2月5日	2月10日			2. 中山間地域活性化における地域流通とJ A・自治体の役割（谷口 憲治／島根大学教授）
2月12日	2月17日			3. 農山村の美しい景観と懐かしい暮らしを「商品」に—京都・美山町のコミュニティ・ビジネス—（浜岡 政好／佛教大学教授）
2月19日	2月24日			4. 中山間地域再生と地域土地資源の利用再編（濱田 年駿／島根大学教授）

エル・ネット「オープンカレッジ」参加大学（平成11～16年度）

平成11年度<27大学>

島根大学、宮崎大学、琉球大学、高知女子大学、東北福祉大学、東北芸術工科大学、常磐大学、十文字学園女子大学、女子栄養大学、駿河台大学、淑徳大学、中央学院大学、亜細亜大学、芝浦工業大学、専修大学、多摩大学、武蔵大学、武蔵工業大学、明治大学、早稲田大学、岐阜女子大学、名古屋商科大学、名城大学、佛教大学、東亜大学、淑徳短期大学、新潟中央短期大学

平成12年度<50大学>

図書館情報大学、東京外国語大学、東京工業大学、横浜国立大学、新潟大学、長岡技術科学大学、山梨大学、岐阜大学、愛知教育大学、京都教育大学、京都工芸繊維大学、奈良教育大学、島根大学、島根医科大学、広島大学、山口大学、徳島大学、長崎大学、宮崎大学、琉球大学、群馬県立女子大学、東京都立科学技術大学、東京都立保健科学大学、大阪市立大学、札幌学院大学、仙台大学、東北芸術工科大学、常磐大学、流通経済大学、跡見学園女子大学、十文字学園女子大学、女子栄養大学、聖学院大学、東邦音楽大学、淑徳大学、中央学院大学、専修大学、多摩大学、中央大学、武蔵大学、武蔵野女子大学、早稲田大学、岐阜女子大学、愛知学院大学、中部大学、名古屋学院大学、名古屋商科大学、佛教大学、岡山商科大学、淑徳短期大学

平成13年度<46大学>

弘前大学、図書館情報大学、筑波大学、東京外国語大学、東京工業大学、横浜国立大学、新潟大学、長岡技術科学大学、山梨大学、岐阜大学、愛知教育大学、京都教育大学、京都工芸繊維大学、奈良教育大学、島根大学、岡山大学、広島大学、徳島大学、長崎大学、宮崎大学、琉球大学、群馬県立女子大学、東京都立科学技術大学、東京都立保健科学大学、大阪市立大学、札幌学院大学、八戸大学、仙台大学、常磐大学、流通経済大学、跡見学園女子大学、十文字学園女子大学、聖学院大学、淑徳大学、中央学院大学、専修大学、武蔵大学、武蔵野女子大学、早稲田大学、愛知学院大学、中部大学、名古屋商科大学、佛教大学、岡山商科大学、山梨県立女子短期大学、淑徳短期大学

平成14年度<53大学>

東北大学、茨城大学、図書館情報大学、筑波大学、千葉大学、東京外国語大学、お茶の水女子大学、新潟大学、金沢大学、山梨大学、信州大学、岐阜大学、静岡大学、名古屋大学、兵庫教育大学、神戸大学、奈良教育大学、岡山大学、広島大学、徳島大学、愛媛大学、長崎大学、宮崎大学・島根大学、琉球大学、東京都立保健科学大学、北海道医療大学、八戸大学、仙台大学、常磐大学、流通経済大学、聖学院大学、淑徳大学、創価大学、東京音楽大学、東京家政学院大学、東洋大学、法政大学、武蔵大学、早稲田大学、女子美術大学、中京女子大学、中部大学、平安女学院大学、佛教大学、岡山商科大学、松山大学、鳥取環境大学、山梨県立女子短期大学、淑徳短期大学、山野美容芸術短期大学、久留米信愛女学院短期大学、南九州短期大学

平成15年度<30大学>

北海道大学、岩手大学、東北大学、筑波大学、東京大学、新潟大学、長岡技術科学大学、山梨大学、京都大学、岡山大学、広島大学、徳島大学、愛媛大学、群馬県立女子大学、北海道医療大学、八戸大学、仙台大学、常磐大学、順天堂大学、上智大学、創価大学、女子美術大学、佛教大学、立命館大学、淑徳短期大学、山野美容芸術短期大学、久留米信愛女学院短期大学、静岡大学・常葉学園大学、琉球大学・島根大学、名古屋産業大学・名古屋経営短期大学

平成 16 年度<29 大学>

北海道教育大学、千葉大学、東京学芸大学、新潟大学、山梨大学、岐阜大学、滋賀医科大学、広島大学、徳島大学、琉球大学、群馬県立女子大学、富山県立大学、北海道医療大学、八戸大学、東北芸術工科大学、常磐大学、慶應義塾大学、上智大学、創価大学、東洋大学、佛教大学、九州産業大学、京都光華女子大学、山梨県立女子短期大学、女子美術短期大学、久留米信愛女学院短期大学、名古屋産業大学・名古屋経営短期大学、松山東雲女子大学・松山東雲短期大学、島根大学・佛教大学

エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施地区（平成 12～16 年度）

平成 12 年度<7 地区>

都道府県	協議会名	主な機関
青森県	エル・ネットオープンカレッジモデル事業実施委員会	青森県総合社会教育センター
山形県	オープンカレッジ尾花沢市実施委員会	尾花沢市生涯学習センター悠美館
長野県	エル・ネットモデル事業実施委員会	松本市中央公民館
岐阜県	「教育情報衛星通信ネットワーク高度化推進事業」モデル事業実施委員会	岐阜県立図書館
広島県	広島県エル・ネット事業実施委員会	広島県立生涯学習センター
島根県	島根県コミュニティ・カレッジ協議会	島根大学生涯学習教育研究センター
群馬県	青少年教育施設エル・ネット活用推進連絡協議会	国立赤城青年の家

平成 13 年度<7 地区>

北海道	網走市エル・ネットオープンカレッジ実施委員会	オホーツク・文化交流センター
青森県	エル・ネットオープンカレッジモデル事業実施委員会	青森県総合社会教育センター
石川県	いしかわエル・ネットオープンカレッジモデル事業実施委員会	石川県立社会教育センター
岐阜県	教育情報衛星通信ネットワーク高度化推進事業モデル事業実施委員会	岐阜県立図書館
岡山県	岡山県エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会	岡山大学総務部総務課
鳥取県	鳥取県エル・ネットオープンカレッジモデル事業実行委員会	鳥取県教育委員会生涯学習課
島根県	島根市町村コミュニティ・カレッジ協議会	島根大学生涯学習教育研究センター

平成 14 年度<10 地区>

秋田県	エル・ネットオープンカレッジモデル事業実施委員会	秋田県教育委員会
茨城県	常磐大学エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会	常磐大学生涯学習センター
新潟県	「こいがた連携講座」実行委員会	新潟県立生涯学習推進センター
石川県	いしかわエル・ネットオープンカレッジモデル事業実施委員会	石川県立社会教育センター
静岡県	「しずおか連携講座」実施委員会	静岡県教育委員会
愛媛県	愛媛県エル・ネット「オープンカレッジ」	愛媛県教育委員会
徳島県	徳島大学エル・ネットオープンカレッジモデル事業実施委員会	徳島大学大学開放実践センター
宮崎県	宮崎・島根エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会	宮崎市教育情報研修センター
熊本県	泗水町エル・ネットモデル事業実施委員会	熊本県泗水町教育委員会
沖縄県	沖縄県エル・ネット「オープンカレッジ」	琉球大学

平成 15 年度＜ 8 地区＞

都道府県	協議会名	主な機関
北海道	エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会	北海道立生涯学習推進センター
千葉県	千葉県エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会	千葉県教育庁教育振興部生涯学習課
新潟県	「こいがた連携公開講座」実行委員会	新潟県立生涯学習推進センター
京都府	佛教大学衛星通信推進協議会	佛教大学
大阪府	大阪市モデル事業実施委員会	大阪市教育委員会事務局市民学習振興課
広島県	広島県エル・ネット「オープンカレッジ」拠点事業推進協議会	広島県立生涯学習センター
島根県	島根オープンカレッジ活用推進協議会	島根大学生涯学習教育研究センター
沖縄県	沖縄・島根エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会	琉球大学生涯学習教育研究センター

平成 16 年度＜ 4 地区＞

北海道	エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会	北海道立生涯学習推進センター
千葉県	エル・ネット高度化推進事業協議会	千葉県我孫子市立生涯学習センター
大阪県	大阪市モデル事業実施委員会	大阪市教育委員会事務局市民学習振興課
広島県	広島県エル・ネット「オープンカレッジ」拠点事業推進協議会	広島県立生涯学習センター